

# 選択的評価事項に係る評価

## 自己評価書

令和元年 6 月

徳山工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
  - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
  - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200 字以下を目安とすること。なお、「……場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

（法）学校教育法、（設）高等専門学校設置基準

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	徳山工業高等専門学校
2. 所在地	山口県周南市学園台
3. 学科等の構成	準学士課程：機械電気工学科，情報電子工学科，土木建築工学科 専攻科課程：機械制御工学専攻，情報電子工学専攻，環境建設工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：機械制御工学専攻，情報電子工学専攻，環境建設工学専攻） J A B E E 認定プログラム（専攻名：機械制御工学専攻，情報電子工学専攻，環境建設工学専攻） その他（ ）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：688 教員数：専任教員 54 人 助手数：0 人
(2) 特徴	
<p>徳山工業高等専門学校（以下、本校という。）は、我が国有数の規模を誇るコンビナートが立地する周南市（旧徳山市）を中心とした近隣地域の強い要望に応える形で、関連分野の複合知識や技術を修得できる全国に数少ない高等教育機関として、昭和 49 年 6 月 7 日に設立された。機械電気工学科，情報電子工学科，土木建築工学科の 3 つの複合学科並びに機械制御工学専攻，情報電子工学専攻および環境建設工学専攻の 3 複合専攻で構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統，建学の精神，理念など</li> </ul> <p>本校は、「技術を愛する人物，人々から信頼される人物を育くみ，広く社会の安全と人々の幸福に寄与する」という建学の理念のもと，早期一貫によるきめ細やかな講義，演習，実験・実習や課題発見・解決型授業などを通して，6 専門分野の基礎から応用までの知識や技術などに裏付けされた実践力，創造力やコミュニケーション力などを身につけるための教育を行っている。また，ロボコン，プロコン，デザコン等の各種コンテストや創造教育に係る受賞などで多くの実績を有するなど，開発型教育に力を注いできており，実技に明るく，総合的判断力に優れた実践的技術者の養成をめざしている。なお，本科 1 年は混合学級制度が採用され，得意とする技術分野の異なる学生同士が交流し易い環境にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創造教育</li> </ul> <p>高専が早期創造教育の可能な高等教育機関であるとの認識から，創造性育成のための教育方法の開発と実践を積極的に進めている。平成 7 年度からは機械電気工学科で，平成 8 年度からは情報電子工学科および土木建築工学科で創造演習の時間を新設し，学生の自発性，創造性育成の取り組みを開始した。創造教育では，自分自身で課題を見出し，自らの発想により答えをみつけ，新しいものを生み出す力を養成することを目的としている。平成 19 年度より「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」の取り組みを開始し，本科・専攻科ともにエンジニアリングデザイン能力の育成に努めるとともに，専攻科ではこれらを補完する形でリベラルアーツ教育や安全工学，技術者倫理などを充実して総合的マネジメント能力の育成に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻科教育</li> </ul> <p>平成 7 年度に，専攻科を設置した。平成 15 年度には工学（融合複合・新領域）関連分野で JABEE の新規認定審査，平成 20 年度，平成 26 年度に継続認定審査を受審し，継続してプログラム認定されている。JABEE プログラムの修了に際しては，研究の成果をまとめ，世に問う経験を積むため，特別研究の成果について学協会での発表を修了要件として義務づけ，国際会議を含め毎年 30 件程度の発表があり，優秀講演表彰なども受けている。カリキュラム上の特色は，専攻科 1 年次前期のインターンシップ（約 3 ヶ月），情報技術，英語力およびプレゼンテーション能力の向上に力を注いでいること，並びに実践的な開発型教育の充実にある。なかでも，専攻科 1 年次前期の「産業論」を起点とし「インターンシップ」および「総合演習」「総合実験」から構成されるデザイン能力の育成と，これらを補完する「経営管理」等のリベラルアーツ教育に特色がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい取り組み</li> </ul> <p>本校では，卒業時の質保証の強化について，平成 28 年度には文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP 事業）テーマ V に高専で唯一採択され，地域と密着し高い倫理観に裏付けられた教育を社会に保証し，それを可視化する事業を</p>	

進めている。そこでは、地域との強い絆を持ち、全国で唯一の複合学科として設置されている本校の特色を生かし、地域産業界に貢献できるように、“安全・安心志向型”技術者育成のためのディプロマ・ポリシーを策定し、これを達成できる能力を持った学生を入学させるためのアドミッションポリシーを整備するとともに、入口から出口まで一貫した教育課程をカリキュラム・ポリシーに則って再構築することにより、徳山高専コアカリキュラム（TCC）を構築しようとしている。また、平成 28 年度に「グローバル化対応タスクフォース」において検討した内容をもとに申請した「“青い鳥”グローバル教育プログラム」により、高専機構からグローバル高専に指定され、多様な異文化理解のもとで、特に英語授業や専門授業を通して、地域に繋がるグローバル化に対応できる高度な専門知識や課題発見・解決力を育成する事業も進めている。

## II 目的

### 1. 目的

徳山工業高等専門学校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。

#### 【準学士課程】

##### ○機械電気工学科における教育上の目的

コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術者の育成

##### ○情報電子工学科における教育上の目的

コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術者の育成

##### ○土木建築工学科における教育上の目的

情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術者の育成

#### 【専攻科課程】

##### ○機械制御工学専攻における教育上の目的

コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術者の育成

##### ○情報電子工学専攻における教育上の目的

コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術者の育成

##### ○環境建設工学専攻における教育上の目的

情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術者の育成

### 2. 徳山工業高等専門学校の使命

#### (1) 建学の理念

技術を愛する人物、人々から信頼される人物を育み、広く社会の安全と人々の幸福に寄与する。

#### (2) 養成しようとする技術者像

#### 【準学士課程】

情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者

#### 【専攻科課程】

情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者

#### (3) 学習・教育目標

世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成

#### (4) 具体的到達目標

#### 【準学士課程】

##### (A) 「世界に通用する」技術者をめざすために

##### (A 1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

##### (A 2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

・自らの目標を定め、外部試験を活用して、英語力のステップアップを図る

##### (B) 「実践力のある」技術者をめざすために

##### (B 1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

・情報関連・実験の科目を修得する

##### (B 2) 自主性と自立性を養うこと

・卒業研究の科目を修得する

##### (C) 「開発型」技術者をめざすために

##### (C 1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する

##### (C 2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

・創造系の科目を修得する

- ・創造演習発表会，卒業研究発表会などで発表を行う

【専攻科課程】

(A)「世界に通用する」技術者をめざすために

(A 1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

- ・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
- ・学士を取得する

(A 2) 国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

- ・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

(B)「実践力のある」技術者をめざすために

(B 1) 情報技術をベースに，実体験を通して表現力を身につけること

- ・情報関連・実験及び総合実験の科目を修得する

(B 2) 自主性と自立性を養うこと

- ・卒業研究の科目を修得する

(C)「開発型」技術者をめざすために

(C 1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

- ・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち，ひとつの分野の定められた科目を修得する
- ・総合科目（2科目以上）及び総合演習の科目を修得する

(C 2) 課題を把握し解決する力を身につけ，感性・創造性を磨き養うこと

- ・インターンシップ及び特別研究の科目を修得する
- ・国内外の学協会で発表を行う

(5) 各学科／専攻で修得する技術

準学士課程と専攻科課程が1対1で対応しているため，双方のめざす技術者像も踏まえて，学科／専攻を通して修得する技術を明確に定めている。

○機械電気工学科／機械制御工学専攻

「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術」／

「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」

○情報電子工学科／情報電子工学専攻

「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術」／

「コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術」

○土木建築工学科／環境建設工学専攻

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術」／

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術」

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

<b>評価の視点</b>	
A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。	
観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(設)第2条第2項
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇定めていることがわかる資料 資料 A-1-1-(1)-01 「徳山工業高等専門学校内部組織規則」 資料 A-1-1-(1)-02 「徳山工業高等専門学校テクノ・リフレッシュ教育センター規則」 資料 A-1-1-(1)-03 「徳山工業高等専門学校知的財産委員会規則」 資料 A-1-1-(1)-04 「徳山工業高等専門学校教育研究支援センター規則」 資料 A-1-1-(1)-05 「徳山工業高等専門学校研究推進室規則」 資料 A-1-1-(1)-06 「徳山工業高等専門学校事務組織規則」
観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	
【留意点】 ○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。 ○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。 ○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。	
関係法令	(設)第2条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料 資料 A-1-2-(1)-01 「一般科目教員研究テーマ一覧」 資料 A-1-2-(1)-02 「機械電気工学科教員研究テーマ一覧」 資料 A-1-2-(1)-03 「情報電子工学科教員研究テーマ一覧」 資料 A-1-2-(1)-04 「土木建築工学科教員研究テーマ一覧」 資料 A-1-2-(1)-05 「学内への競争的資金の周知」 資料 A-1-2-(1)-06 「テクノ・リフレッシュ教育センターの主な活動」

	資料 A-1-2-(1)-07 「徳山高専テクノ・アカデミア会則」 資料 A-1-2-(1)-08 「徳山高専テクノ・アカデミア会員一覧」
(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料 資料 A-1-2-(2)-01 「産官学連携（共同研究）」 資料 A-1-2-(2)-02 「産官学連携（受託研究）」
(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料 資料 A-1-2-(3)-01 「知的財産委員会のフローチャート」 資料 A-1-2-(3)-02 「テクノ・リフレッシュ教育センター技術相談フォームダウンロードページ」 <a href="http://technotokuyama.jp/techcenter/soudan">http://technotokuyama.jp/techcenter/soudan</a> 資料 A-1-2-(3)-03 「テクノ・リフレッシュ教育センター産官学共同研究申込フォームダウンロードページ」 <a href="http://technotokuyama.jp/techcenter/kyodo">http://technotokuyama.jp/techcenter/kyodo</a>
(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。 ■行われている □行われていない	◇研究活動の実施状況がわかる資料 資料 A-1-2-(4)-01 「徳山高専テクノ・アカデミア事業（会員企業との交流）」 資料 A-1-2-(4)-02 「中小企業知的財産活動支援事業費補助金特別講演・説明会」 資料 A-1-2-(4)-03 「産官学連携（共同研究）」 資料 A-1-2-(4)-04 「産官学連携（受託研究）」 資料 A-1-2-(4)-05 「産官学連携（寄付金）」 資料 A-1-2-(4)-06 「技術相談受入れ一覧」
<b>観点 A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</b>	
<b>【留意点】</b> ○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。 ○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。 ■得られている □得られていない	◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料 資料 A-1-3-(1)-01 「産官学連携（共同研究報告）」 資料 A-1-3-(1)-02 「産官学連携（受託研究報告）」 資料 A-1-3-(1)-03 「校長裁量経費採択状況」 資料 A-1-3-(1)-04 「共同研究の成果に対するの新聞記事（抜粋）」 資料 A-1-3-(1)-05 「科学研究費助成事業採択状況（継続分含）」

	むい) 資料 A-1-3-(1)-06 「公募助成金採択状況」
観点 A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	
<p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。</li> <li>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</li> <li>○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</li> </ul>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 観点 A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>資料 A-1-4-(1)-01 「研究推進室による研究支援体制」</p> <p>◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>研究推進室がテクノ・リフレッシュ教育センター及びテクノ・アカデミアと協力して教員個々の研究活動に対して資料 A-1-4-(1)-01 のような支援を行い、共同研究、受託研究の件数は順調に増加している。また、科研費申請書ブラッシュアップの効果は明確には見られないが、ブラッシュアップを受けた教員の評価は良好であり、今後も支援を行い、20 件程度の科研費採択を目標としている。</p> <p>資料 A-1-4-(1)-02 「科研費獲得件数と科研申請書ブラッシュアップの成果分析」、</p> <p>資料 A-1-4-(1)-03 「平成 30 年度中小企業知的財産活動支援事業費補助金の申請概要」</p>
<p><b>A-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	

<p><b>選択的評価事項 A 目的の達成状況の判断</b></p> <p>■目的の達成状況が非常に優れている</p> <p>□目的の達成状況が良好である</p> <p>□目的の達成状況がおおむね良好である</p> <p>□目的の達成状況が不十分である</p>
--

**選択的評価事項A**

**優れた点**

本校の研究活動の目的に照らして、各学科に必要な研究体制が整っており、それを支援するために研究推進室、テクノ・リフレッシュ教育センター及びテクノ・アカデミアによる支援体制が整備され、十分に機能していることが、研究実績、共同研究ならびに受託研究の件数が増加に繋がっている。

**改善を要する点**

該当なし

**選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況**

<b>評価の視点</b>	
B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。	
観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
【留意点】	
○ なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。	
■満たしていると判断する	
□満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 ■定めている □定めていない	◇定めていることがわかる資料 資料 B-1-1-(1)-01 「研究や社会連携に関する事項」 資料 B-1-1-(1)-02 「テクノ・リフレッシュ教育センター組織図」 <a href="http://technotokuyama.jp/images/techcenter/top/ichiduke1.jpg">http://technotokuyama.jp/images/techcenter/top/ichiduke1.jpg</a> 資料 B-1-1-(1)-03 「教育研究支援センター組織図」 <a href="http://www2.tokuyama.ac.jp/scfer/shoukai.html">http://www2.tokuyama.ac.jp/scfer/shoukai.html</a>
観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。	
【留意点】	
○ 実施体制について分析することは必須ではない。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。	
■満たしていると判断する	
□満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。 ■策定している □策定していない	◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料 資料 B-1-2-(1)-01 「2018年度徳山高専シーズ集」 <a href="http://nit-tokuyama.jp/seeds_list/">http://nit-tokuyama.jp/seeds_list/</a> 資料 B-1-2-(1)-02 「徳山高専テクノ・アカデミア事業の概要」 資料 B-1-2-(1)-03 「公的な機関からの依頼による各種委員・講師等（平成29年度）」 資料 B-1-2-(1)-04 「徳山高専サテライト（いんぐりっしゅ☆る〜む）」 <a href="https://www.tokuyama.ac.jp/satellite/pdf/H31/H31eng.pdf">https://www.tokuyama.ac.jp/satellite/pdf/H31/H31eng.pdf</a> 資料 B-1-2-(1)-05 「徳山高専サテライト（パソコン若葉相談室）」 <a href="http://www.tokuyama.ac.jp/satellite/pcwakaba.html">http://www.tokuyama.ac.jp/satellite/pcwakaba.html</a> 資料 B-1-2-(1)-06 「徳山高専サテライト（まちなかの小さな卒研発表会）」

	<p><a href="http://www.tokuyama.ac.jp/satellite/pdf/H30/H30matinka.pdf">http://www.tokuyama.ac.jp/satellite/pdf/H30/H30matinka.pdf</a></p>
<p>(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。</p> <p>■実施している □実施していない</p>	<p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>資料 B-1-2-(2)-01「徳山高専テクノ・アカデミア会員企業との交流」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-02「公開講座」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-03「科学技術週間の実験教室」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-04「出前授業:周陽中学校・自学サポートプラン, 防災出前授業, きく・みる・つくる技術教室～あなたの未来を応援します～」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-05「周南ロボコン 2017「ロボット制作教室」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-06「夏休みジュニア科学教室」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-07「サイエンスアカデミー」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-08「夢広場のイベント一覧 (平成 29 年度)」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-09「徳山高専テクノ・アカデミア事業 (共同研究)」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-10「徳山高専テクノ・アカデミア事業 (技術者養成のための技術セミナー等)」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-11「徳山高専テクノ・アカデミア事業 (産学連携研究会の実施と報告)」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-12「教育研究支援センター (平成 29 年度活動内容)」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-13「合同企業研究会 (地元企業への貢献)」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-14「企業バス見学ツアー (地元企業への貢献)」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-15「教育研究支援センター (地域貢献活動)」</p>
<p>観点 B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。</p> <p>■認められる □認められない</p>	<p>◇活動の成果がわかる資料 (活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等)</p> <p>資料 B-1-3-(1)-01「公開講座「IoT ブートキャンプ初級 A コース」アンケート集計表」</p> <p>資料 B-1-3-(1)-02「公開講座「英語講座 (中学英語の重点マスター)」アンケート集計表」</p>
<p>観点 B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	

<p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</li> <li>○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</li> </ul>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>資料 B-1-4-(1)-01「平成 30 年度中国地区高専テクノセンター長等会議活動状況報告」</p> <p>◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>これまでに開催した各種公開講座、研修会、セミナーなどは、開催回数、参加者数、アンケート結果などで十分な成果を上げ、その目的を達成している。また、アンケート結果（一例：資料 B-1-4-(1)-02）から希望する講座内容を次回に反映させるなど、テクノ・リフレッシュ教育センターや徳山高専テクノ・アカデミアを中心とした、改善のためのシステムがあり、有効に機能している。</p> <p>資料 B-1-4-(1)-02「徳山高専テクノ・アカデミア一般会員企業様向けアンケート集計（H31 年 2 月実施）と分析結果（抜粋）」</p>
<p><b>B-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	

<p><b>選択的評価事項B 目的の達成状況の判断</b></p> <p>■目的の達成状況が非常に優れている</p> <p>□目的の達成状況が良好である</p> <p>□目的の達成状況がおおむね良好である</p> <p>□目的の達成状況が不十分である</p>
---

<p><b>選択的評価事項B</b></p> <p><b>優れた点</b></p> <p>テクノ・リフレッシュ教育センターや徳山高専テクノ・アカデミアとの連携で行っている技術研修や人材養成は、地場企業の要請に対応する内容を計画的に実施している。また、各種公開講座は、一般市民の生涯学習に関係するものから、小・中学生に対する自然や科学に対する興味関心を引き出すものまで、幅広く計画的、継続的に実施している。</p> <p>周南市の徳山駅前振わい交流施設内に「徳山高専サテライト」という活動拠点を持ち、そこで、本校学生も参加し、一般市民を対象としたイベントを定期的に継続して開催している。また、市民の目に触れやすいという特色を生かし、</p>
---

徳山工業高等専門学校

<p>各種の情報発信も積極的に行っている。</p> <p>地域生涯教育の面では、近接する周陽中学校での出前講義が定着しつつあり、地域社会の中で科学教育等に活用されている。</p>
<b>改善を要する点</b>
該当なし